

平成18年3月29日（水）

愛知県産業技術研究所常滑窯業技術センター

担当 生浦、水野

電話 0569-35-5151

愛知県産業労働部産業技術課技術振興グループ

担当 加藤、渡辺

内線 3383, 3384

（ダイヤルイン）052-954-6348

常滑焼の魅力を再発見、

「伝統技法（大物・陶彫編）ビデオ」が完成

伝統の技を取り入れた新しいタイプの常滑焼を窯業技術センター研究発表会で発表

愛知県産業技術研究所常滑窯業技術センターでは、常滑焼の伝統技法を全2時間のビデオにまとめました。

これは、伝統を新しい視点で捉え直し、新商品作りに活用するため、陶製風呂桶、盆栽鉢などの大物技法や人形置物の陶彫技法を大物・陶彫編として収録・編集したものです。

4月18日（火）に開催する常滑窯業技術センターの研究発表会において、伝統技法を活かして開発した試作品をはじめとする研究成果と併せて「伝統技法ビデオ」を発表します。

「伝統技法ビデオ」は、中部国際空港内の常滑焼店舗「陶翔」（中部国際空港ターミナルビル4階）で上映されるほか、常滑市内の観光施設でも活用します。閲覧ご希望の方は、常滑市環境経済部商工観光課にて貸出（VHSビデオテープ）を行います。

1. 背景

日本六古窯の一つに数えられる常滑には「のた絵」などの優秀な伝統技法が伝えられています。また、大型のカメ類などの大物作りは古く平安時代まで遡ることができ、海路を利用し全国に輸送してきた歴史があります。大物作りの伝統は今も健在で、平成17年2月に開港した中部国際空港に、直径130センチ、高さ100センチの大型植木鉢を納入しております。

今日、原料や情報の均質化によって陶磁器産地の特色が失われつつありますが、常滑窯業技術センターでは伝統技法を新しい視点で捉え直したものづくりを重視し、平成15年度から常滑焼の組合・企業・個人作家と共同で、伝統技法の技術資料作成（ビデオ収録）と伝統技法を取り入れた新商品開発に取り組んでいます。

2. 研究成果

(1) 「のた絵」を取り入れた、菓子器として使用できる朱泥製ふたのもの

はすの花の絵柄をデザインし、常滑焼の伝統技法である「のた絵」による絵付けを行った。朱泥という個性の強い素材に現代感覚を盛り込み、重厚感で東洋的な趣向に

まとめた。ロクロ成形は伝統工芸士による。

常滑焼の伝統技法である「[型押技法](#)」により、落ふきや空豆などの野菜や、宝冠をかたどった風呂桶用の陶製湯口を制作した。石膏型の構造や石膏型に隙間なく粘土を充填させる手法は、ビデオに収録した盆栽鉢製造の名人技が参考になった。



朱泥製ふたもの



陶製湯口

3. 収録概要

(1)収録時間 全2時間 (VHSビデオテープ及びDVD 各1巻)

(2)実演者 計5名

[ヨリコ作り](#)による陶製風呂桶

石膏型の[型押技法](#)による盆栽鉢

ロクロ技法による花器

[木型](#)による花器

[陶彫](#)技法による人形置物

前川まえかわ賢吾けんご 氏

片岡かたおか貞光さだみつ 氏

中野なかの濬介しゅんすけ 氏

伊藤いとう充延みつのぶ 氏

斎藤さいとう智夫としお 氏



(3)制作協力 とこなめ焼技術協議会

(とこなめ焼協同組合、常滑陶磁器卸商業協同組合、常滑市)

(4)ビデオの活用先

常滑市環境経済部商工観光課

(観光プラザ、登り窯広場、民俗資料館、陶業試作訓練所、陶芸研究所)
とこなめ焼協同組合
常滑陶磁器卸商業協同組合
常滑商工会議所
陶翔(とこなめ工房株式会社、(中部国際空港ターミナルビル内))ほか

4. 成果発表会

研究成果発表会を開催し、ビデオの上映と試作品の展示を行います。

(1) 名称 平成17年度研究成果発表会

(2) 日時 平成18年4月18日(火)午後1時30分～3時30分

(3) 発表内容 ○伝統技法を活用した新製品

・「のた絵」技法による彩色・絵付けを施したふたもの

・「型押し」技法による風呂桶用の陶製湯口

○廃棄瓦を主原料とした粘土瓦

○セラミックス内装材への機能性付与

○セラミックスの薄膜の評価技術

○鑄込成形用低温焼成素地

(5) 申し込み及び問合せ先

電話またはFAXでお申し込みください。

愛知県産業技術研究所常滑窯業技術センター

常滑市大曾町4丁目50番地

電話：0569-35-5151 FAX：0569-34-8196

URL：<http://www.aichi-inst.jp/>

5. ビデオの貸出

(1)貸出窓口 常滑市環境経済部商工観光課

常滑市新開町4丁目1番地

電話0569-35-5111

(2)貸出開始 平成18年4月19日(水)から